

地域連携センター報

REGIONAL COLLABORATION CENTER

Vol. 42

令和6年9月発行

県立広島大学

Prefectural University of Hiroshima



Shobara



庄原市立山内小学校大学訪問

1月24日に庄原市立山内小学校の6年生10名が、本学庄原キャンパスの見学をされました。卒業する6年生が地元にある大学を見学することで、将来の自分の夢を広げていってほしいとの趣旨で、昨年度より始められたものです。

雪が積もる天候のなか、人工光植物工場での野菜栽培、大学での授業、大講義室、橋本研究室を見学しました。

授業の見学では、受講している大学生と交流する機会が持て、「大学でどんな勉強をしていますか。」「卒業後の進路はどうしますか。」といった質問が出ていました。

小学校では見ることのできない大講義室では、たくさんのスクリーンに興味を持ち、遠隔授業や複数の教材を提示するために使っていると説明を受けました。

橋本研究室では、水道水の安全に役立てるための研究を紹介されました。本格的な実験機器に興味を持ったようでした。

最後の感想では、「大学の先生は思っていたよりも親しみやすかったです。」という声がありました。



人工光植物工場の見学

公開講座

「庄原市民公開講座（前期）」

「宮島からひろしまの海へーその景観と人々の交流ー」をテーマに、庄原市教育委員会と本学の共催で庄原市民公開講座（前期）を、8月2日、9日、26日の日程で本学庄原キャンパスにて実施しました。

第1回では、「厳島八景」の成立には、柏村直條が一般に考えられているよりも大きな尽力をしたことについて、柏村直條の人脈や4つの八景の類似性から史料を読み解きました。

第2回では、宮島を描いた浮世絵が紹介されました。宮島学センターでは、「宮島学センターデジタルアーカイブサイト」で所蔵資料のうち約300点の高精細画像を公開しています。江戸時代から明治時代に宮島を題材として描かれた作品を紹介し、江戸時代の人々が抱いた「宮島のイメージ」を探りました。

第3回では、港町の景観は観光資源としての魅力を有しており、瀬戸内の港町の多くは、中世に成立・発展したと考えられ、人・物・情報の結びつきにより、多くの港湾がネットワークを築いていたことを解説しました。

回	テーマ	講師
1	「厳島八景」の成立と柏村直條	地域創生学部 教授 柳川 順子
2	宮島を描いた浮世絵	地域基盤研究機構 宮島学センター 特命講師 大知 徳子
3	ひろしまの海がつな いだ人・物・情報 ーよみがえる中世の 港町ー	地域創生学部 教授 鈴木 康之



第1回の様子

受講者は、第1回13名、第2回13名、第3回12名の延べ38名でした。うち、2回以上受講した13名に修了証を交付しました。

「小学生のための理科実験教室」

8月3日に本学庄原キャンパスにて、小学校3年生から6年生を対象に、「楽しくやってみよう!!理科実験教室」を開講しました。生物資源科学部生命環境学科の柳下真由子助教が、午前「サインペンに含まれる色を見よう」、午後「カラフルなつぶつぶ人工いくらを作ってみよう」をテーマに実験講座を行いました。

午前、ペーパークロマトグラフィーでサインペンのインクに含まれている色を分けました。これを用いて花火を描きました。

午後は、アルギン酸ナトリウム水溶液と塩化カルシウムからカラフルな人工いくらを作りました。最後に、「毎日の生活の中でふしぎだな、なぜだろう、と感じたことを大切にしてください。」とのメッセージがありました。

参加者数は、午前12名、午後12名の延べ24名で、中学生の姉や従姉、妹(計4名)の参加もありました。



サインペンに含まれる色の実験

「中学生向け公開講座」

7月25日、26日に本学庄原キャンパスにて、中学生を対象に、『夏休み、「そだ実験しよう!』』を開講しました。25日午前に生物資源科学部地域資源開発学科の吉野智之准教授が「顕微鏡で観てみよう」、同日午後に生物資源科学部地域資源開発学科の山本幸弘准教授が「消化酵素を使ってみよう」、26日午前に生物資源科学部地域資源開発学科の西村和之教授が「電気について考えてみよう」をテーマに実験講座を行いました。中学生述べ41名の参加がありました。

「顕微鏡で観てみよう」では、生徒がそれぞれ光学顕微鏡を操作し、コメやジャガイモのでんぷんを観察し、熱心にスケッチをしました。次に電子顕微鏡で、ダンゴムシ、アリ、髪の毛などを観察しました。おもしろいけど、ちょっと難しかったと思う方もいた様子でした。

「消化酵素を使ってみよう」では、リパーゼが脂肪を分解する様子を、薄層クロマトグラフィーにより確認する実験をしました。ピペットを使う練習の後、実験を行い、成分が分解できているのが確認できました。

「電気について考えてみよう」では、LEDを光らせる回路を組み立てました。保護者や大学関係者を含め、皆さん熱心に取り組み、多くの方は光らせることができました。また、震災時にスマートフォンを充電できることが注目された、排熱を利用した簡単な仕組みで発電できるエンジンの紹介もありました。



顕微鏡での観察

学術講演会、大学祭の開催

本学庄原キャンパスは、広島農業短期大学、広島県立大学を受け継いでいます。2024年が広島農業短期大学開学70周年、広島県立大学開学35周年に当たります。

10月26日、27日に本学庄原キャンパス大学祭「白楊祭」を開催するのに合わせ、10月26日には周年記

念事業として「未来へ繋ぐ大地の教え」をテーマに、記念式典・記念講演・懇親会を開催します。記念講演は本学の猪谷富雄名誉教授を講師に、「農業短大から県立広島大まで」と題して行われます。

10月27日には、東北大学大学院生命科学研究科の大久保智司特任助教による「参加する科学－地球温暖化に挑む－」と題した学術講演会が行われます。大久保先生のご専門は土壌微生物です。講演後に、希望者と土壌サンプリングを実施する予定です。

本年度の「白楊祭」のテーマは、「第35回丘の上の白楊祭」です。LIVEや模擬店もあり、学外からもご参加いただけますので、ぜひお越しください。

編集後記

地域連携センター報第42号をお届けします。本号では、小学生、中学生向けの見学会や講座、市民公開講座、大学祭及び同時開催のイベントを紹介しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の制約もほぼなくなり、学内にも活気が戻って参りました。地域での活動も活発になってきております。地域の皆様と協働で連携活動を推進して参りますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号
電話 (082) 251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター [本号編集担当]
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地
電話 (0824) 74-1000/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号
電話 (0848) 60-1120/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp